

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 6 月 1 日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (6/1 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.9 m ³ /h	31.6	107.1 kPa abs	A系:0.00 vol% B系:0.00 vol%
		給水系：約 3.4 m ³ /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 6.0 m ³ /h	46.3	14.27 kPa g	A系:0.22 vol% B系:0.22 vol%
		給水系：約 2.9 m ³ /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.0 m ³ /h	57.1	0.26 kPa g	A系:0.13 vol% B系:0.13 vol%
		給水系：約 2.9 m ³ /h			

*:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【1号機】・6/1 原子炉格納容器ガス管理システムのチャコールフィルタ・粒子状フィルタのサンプリングを実施。

【5号機】・5/29 10:33 これまで機器ハッチを開口することにより行っていた 5号機原子炉格納容器内の排気について、原子炉格納容器内より直接行うため、震災以降停止していた原子炉格納容器排気ファンを起動。5/30 10:50 まで当該ファンの短期間運転を実施。

6/1 10:30 主排気筒における気体廃棄物のガンマ線核種分析結果では、当該ファンの運転による影響は確認されなかったことから、連続運転を開始。

<2. 使用済燃料プールの状況> (6/1 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	22.0
2号機	循環冷却システム	運転中	23.0
3号機	循環冷却システム	運転中	22.2
4号機	循環冷却システム	停止中	33.6 *

*:4号機使用済燃料プール代替冷却システムが停止中のため、使用済燃料プールに設置してある仮設温度計の値を記載(参考値)。

【4号機】・6/1 8:56 使用済燃料プール一次冷却系のポンプ吸込ストレーナ交換を実施するため、使用済燃料プールの冷却を停止(停止時使用済燃料プール水温度:約 31℃)。なお、停止期間は 6/3 までを予定しており、プール水温度の上昇率は約 0.3℃/h と評価していることから、プール水温度の管理に問題はない。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元 →	移送先	移送状況
1号機	1号機 タービン建屋	→ 2号機タービン建屋	6/1 14:22 ~ 移送実施中
2号機	2号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	5/27 14:34 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	5/19 9:15 ~ 6/1 9:58 移送実施
6号機	6号機 タービン建屋	→ 仮設タンク	6/1 10:00 ~ 16:00 移送実施

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (6/1 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/14～ 港湾内の海底土拡散防止を目的として、固化土(被覆材)による海底土被覆工事の本格施工に着手。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H24/5/29 12:30 頃 発電所西門に設置してある可搬型モニタリングポストについて、データが免震重要棟監視盤にて読み取れない事象が発生していることを確認。また、代替監視用の無線式のモニタリングポストについてもデータが免震重要棟監視盤にて読み取れない事象が発生していることを確認。同日 12:30 から 19:30 のデータについては現場での作業員による代替測定を実施。その後、受信機から端末へ伝送する装置の電源リセットを行い、同日 19:39 に無線式モニタリングシステムが復旧したことから、同日 20:00 以降のデータについては、無線式モニタリングシステムによるデータ採取を継続しており、データの欠測はない。
その後、5/31 午前中に現場確認を行ったところ、当該モニタリングポストの伝送ケーブルに断線が確認されたため、当該ケーブルの補修を実施。また、伝送ケーブルのコネクタ部の端子に腐食が認められたことから、コネクタ部を除去して、直に当該ケーブルの結線を実施し、その後、受信端末盤のリセット操作を実施したところ、同日 13:00 頃、復旧。13:00 以降、事象の再発等がないか、監視を実施していたが、問題がないことから、同日 18:00 より、可搬型MPによるデータ採取を再開。
- ・H24/6/1 1号機原子炉建屋カバー排気フィルタ設備による原子炉建屋上部のダストサンプリングを実施。
- ・H24/6/1 14:20 頃、構内南防波堤入口付近において、遮水壁工事に使用されていたブルドーザーの油圧ユニット付近から油が漏れいしていることを、ブルドーザーを運転していた協力企業作業員が確認。油については、油圧制御用の油だと思われるが、2m×5mの範囲で地面に油が漏出。なお、現在漏えいは停止しており、漏えいした油については吸着マットおよび中和剤により処置しており、油の海側への流出はない。同日 15:30 頃、双葉消防本部に連絡し、消防による確認の結果、同日 16:59、危険物ではない漏れの事象であると判断。今後、原因調査を実施する予定。

以上